

○富士乃其^み福^く狩^りのり者^{しや}信^{しん}群^{ぐん}ふ〜く富士^{ふじ}之^し登^{のぼ}る^り事^{こと}二十^に二^に度^{たび}
終^はふ今^{いま}年^{ねん}六月^{りくごつ}十七^{じち}日^{にち}山の七^{しち}八^{はち}合^あ目^めあ〜て絶^た死^し也^{なり}
青山^{あおやま}海^{うみ}終^はる

○三月^{さんげつ}より圓^ま内^{うち}院^{いん}を〜城^{しろ}及^{および}岩^{いわ}崎^{さき}崎^{さき}新^{あらた}造^{つく}り來^{きた}開^{ひら}帳^{ちやう}

○去年^{こぞ}の刻^{とき}鐘^{かね}爲^な濃^{のこ}淡^{たん}送^{さう}○七月^{しちげつ}上^{かみ}旬^{じゆん}より渡^{わた}橋^{はし}天^{あま}下^{した}ふ乃^{すなは}ち二十^に百^{ひやく}十日^{じちにち}日^{にち}

大^{だい}浴^{よく}津^つ津^つ終^はる^り業^{わざ}果^はて廢^{やぶ}神^{かみ}乃^{すなは}ち形^{かたち}を遠^{とほ}く〜を遠^{とほ}く〜とて鉦^{かね}を^を

数^{かず}を〜〜と平^{ひら}つれ〜海^{うみ}辺^へふ〜也^{なり}○肌^{かみ}腫^はれ小^こ疔^{ぢり}治^{ちやう}敷^{しき}をぬる

○七月^{しちげつ}八^{はち}日^{にち}より海^{うみ}土^{つち}崩^おれ神^{かみ}代^{しろしろ}親^{おや}世^よ多^{おほ}富^{とみ}家^か帳^{ちやう} 八月^{はちげつ}廿^{にじゅう}六^{ろく}日^{にち}

○八月^{はちげつ}六^{ろく}日^{にち}金^{かね}彫^ほ工^{こう}横^{よこ}谷^や字^じ砥^ぢ卒^{そつ} 本^{ほん}中^{ちゆう}敷^{しき}の中^{ちゆう}

○八月^{はちげつ}十九^{じゅうきゅう}日^{にち}昼^{ひる}より夜^{よる}ふ入^いるま〜大^{だい}風^{ふう}吹^ふき浪^{なみ}を瀆^{たふ}す

○川^{がは}崎^{さき}水^{みづ}長^{なが}きる^り観^{かん}音^{おん}の靈^{れい}龜^き石^{せき}海^{うみ}中^{ちゆう}より上^ある

○九月^{きゅうげつ}將^{まさ}時^{とき}即^{すなは}ち參^{まゐ}り信^{しん}唐^{たう}土^どの鞍^あ馬^まを画^{ゑが}ひる歌^{うた}を儀^ぎ宗^{そう}を奪^{うば}ひ

掘^ほく○江戸^{えど}名^な務^む志^し云^い江戸^{えど}の町^{まち}人^{ひと}加^か賀^が屋^や長^{なが}生^{せい}清^{せい}故^こ直^{ちよく}思^{おぼ}ふを
〜中^{ちゆう}廢^{やぶ}矣^{なり}〜と〜本^{ほん}殿^{でん}山^{さん}の傍^{かた}に百^{ひやく}一^{いち}坪^{へい}の地^ぢをぬか

○十一月^{じゅういちげつ}廣^{ひろ}系^{けい}德^{とく}谷^や爲^な社^{しゃ}巴^は里^り布^ふの家^けを移^{うつ}す今^{いま}清^{せい}是^し德^{とく}海^{うみ}村^{むら}長^{なが}土^ど前^{まへ}を移^{うつ}すといり

○江戸^{えど}名^な務^む志^しの云^いを思^{おも}ふ〜云^い江戸^{えど}市^し屋^や宗^{そう}助^{すけ}といふ高^{たか}人^{ひと}久^く福^{ふく}中^{ちゆう}あまの大人^{おとな}小^こ作^{せつ}本^{ほん}

本^{ほん}の傳^{でん}ひを〜又^{また}海^{うみ}崎^{さき}院^{いん}の石^{せき}置^お置^お員^{いん}本^{ほん}中^{ちゆう}あまの利^りをぬか〜又^{また}今^{いま}年^{ねん}日^{にち}本^{ほん}崎^{さき}川^{がは}渡^{わた}

のゆを〜乘^{のり}りて水^{みづ}崎^{さき}小^こ社^{しゃ}合^あ〜大^{だい}公^{こう}限^{げん}と〜は江^えノ木^の松^の格^の子^のといふ江^えノ助^の五^ご十^{じゅう}才^{さい}計^{けい}りや〜子^こ被^ひふ

世^よをぬか〜信^{しん}唐^{たう}土^どと〜といり〜と云^いふ

享^{きやう}保^ほ十九^{じゅうきゅう}年^{ねん}甲^が寅^{えん}

二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}乃^{すなは}ち徳^{とく}字^じ谷^や村^{むら}の浪^{なみ}鯨^{じやう}二^にッ流^{りゆう}あつ^つ五^ご尺^{しゃく} 又^{また}本^{ほん}崎^{さき}邊^へ廣^{ひろ}切^{せき}ふか

て着^きせぬとい^い○二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}五^ご日^{にち}備^ひ原^{げん}田^{でん}中^{ちゆう}榮^{えい}渡^{わた}卒^{そつ} 二十六^{にじゅうろく}才^{さい}山^{さん}谷^や

○二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}一^{いち}日^{にち}弘^{こう}法^{ぽう}大^{だい}師^し九^{きゅう}百^{ひやく}年^{ねん}忌^ぎ 法^{ぽう}終^はを設^{たて}く

○二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}四^し日^{にち}紀^き伊^い必^{ひつ}爲^な文^{ぶん}左^さ五^ご尺^{しゃく}の死^し也^{なり}
西^{せい}間^ま紀^き文^{ぶん}を〜健^{けん}号^{ごう}十^{じゅう}山^{さん}と云^い吳^ご嶺^{りやう}寺^じ中^{ちゆう}

澤^{さく}堂^{たう}院^{いん}小^こ墓^ぼあり晩^{ばん}年^{ねん}深^{しん}川^{がは}一の寺^じ居^ゐ乃^{なり}終^はる

○七月廿八日世止の毒の障りありて井戸の蓋をよむ

○八月十二日官儒宮鳩築止る事七十八才通稱新脚波の意用波町宛
大塚海持院東農家の後小築以

○九月十日能原桑忌貞作卒六十五才卒所
法君小築以

○十一月官医平月之英法茶茶法の七室兵衛丹を弘む

○十二月本所小法茶院建

○大坂寺作祀前極江戸へ下り是より義孝寺前の深淵橋たふ
折まる祀前掘り処京中せき居置元と改む

享保廿年 乙卯 二月至

二月廿日濱村家系廿二之回忌濱村家の齋居石牌を建り終り
有條小玄傍撰あり

○二月十九日儒所山田麟源卒名弘嗣孫大佐
谷津南松小築

○二月辛酉町(初)人冬夜を置り町医志水玄浩杉山養元交
冬を制り同本中濃仙日光人冬獨冬湯を弘む

○角敵入丸山積を左衛門長清を以終ましまし○松板の名号圓向流中宗源

合蓮
あか○同所中下総新水村宗帳○東廬山小右孫天宮建

○五月七日書家依々本文山卒七十七才博よ甲
澤運流小築以

○五月晦日儒所齋見爽鳩卒七十六才新堀
正源小築

○七月二日黒雲天を覆ひ大風丸を吹り所々お屋を損を流巻いんまき
ありとり○秋深川八幡宮の境内小能原後宮を修葺及神中

て神小築あり小祠を建り吉田加中緒あり一取とくしは後宮修葺するに事係十八
年正月廿二日と甲雲と宗後法所墓の側小築

○十月麻布色之焼亡○青木出陽文隆 台命を世家りて耳後を

載○又冬冬之化

○十二月廿二日細井廣澤卒

七十八才、嘗くカ村波致す、本業以門人平林、厚儀後家之鳥、空曾辰、冥思審之并親和

藤益道を介敷多あり

男を九輩知文といふ

此年間記事

同日是之懼ち宗判金毘羅指現社造營

武元諸社に寄附せしむり、以時代再興ありてより、猶人も

指しけるは、實に此年、八百九百

に十坪、境内寄附ありと云ふ

○江戸中瓦葺 済免あり

○中野小松樹を裁しめり ○澤井植木屋澤井屋(百坪)の楓を

養ふ ○武家かこ(鎌上)中澤保の以り始りし、漸に同屋合ふんえ

但し、裏付上中ハその

○神田明神社社奉修の大雨中より運送ありし、享保廿五年、株

金屋並道具を収(トモタ)倉庫於機せしむり、そのこ終り

周ふ中、古き新く小庭甚く居りし、つれをむしり、惜風遠りの庭根は本柱のたげ、塵の
かて、熱体、漆塗ありし、中ハ人形、茶碗のありありあり、是をむしり、不仕つけむしり
を賣りし、を合、二十に五を限りし、今のむしり、本の賣りも、是よりお價の終り、
因供、奉りたるを、りり、この庭屋の外、小舟、附せし号し、柳の宿り、おまかせし、あり
庭屋ハ、享保六年、小直、停止ありて、は、後のか、を、を、か、以、空磨の以り、附、奉、修、多
か、の、張、奉、奉、の、彌、生、の、心、面、小、こ、う、け、を、あ、つ、つ、い、女子、二人、あ、つ、び、て、柳、を、う、け、噴、を
う、り、し、二、味、せん、を、深、は、葉、の、ち、り、め、ん、の、紅、緒、の、裏、つ、け、る、を、裁、を、う、む、る、踊、子、ハ、こ、を、あ、ま、く
踊、る、節、を、教、へ、た、板、目、後、の、内、より、控、証、ハ、日、夜、の、上、の、方、へ、ぬ、れ、ぬ、り、男子、頃、二、味、柳、を
ま、り、柳、の、う、む、り、扇、柳、子、の、い、お、ま、を、う、む、る、を、奉、取、以、ま、の
風、俗、あり、と、て、天、保、中、終、り、を、致、打、板、目、を、立、所、の、を、り、あり

○此時代書が 尾林竹 細井廣澤 春井仍水 信東湖 伴、木、文、山

を、か、り、ま、し、り ○此、其、本、傳、守、伝、あり、者、師、長、英、譽、と、云、知、ふ、く、宗

元の体、を、刻、意、し、待、他、ふ、め、を、傳、り、後、但、疎、及、ひ、南、郭、小、堂、入、て、詩

風、を、愛、ひ、し、を、鳥、を、以、渡、集、と、い、ふ

○享保中、并、因、春、波、本、於、り、り、の、國、字、を、ま、ま、授、け、え、又、中、の、事、傳、り

○此、江、漢、第、一、の、境、内、於、て、靈、念、こ、り、の、の、辻、終、義、小、教、を、ま、ま、授、け、

武江年表卷之四

十九

人の美をとりたるものなりと云ふは、此の年意の事なりと云ふ事あり。此の志道軒のよの長命をとりたるものなりと云ふは、産後清少なり。

○時計茶屋の事あり。海老。○江戸中書掛花御とてお茶屋のり。行後

ありとてお茶屋のり。○浮世繪師 奥村文圃の事あり。○浮世繪師 奥村文圃の事あり。

仙花 名所清伝 同清伝 迎養助五席清基 宝川吟 雲房伝 伝等

行る。○海老の御宮古伝を後撮享保の末系都よりとりて時不

りする。この時を後撮の風俗をとりて、髪を文金風とて、げの櫛を雲立元結とて、巻

の羽折をとり、長き紐をせんとす。下は、下月代の際まで巻込て結、夜は、対人

○半衣の事あり。○半衣の事あり。○半衣の事あり。○半衣の事あり。

○松崎の五郎板田の事あり。○松崎の五郎板田の事あり。○松崎の五郎板田の事あり。

○大工の事あり。○大工の事あり。○大工の事あり。○大工の事あり。

○養子お撰流の事あり。○養子お撰流の事あり。○養子お撰流の事あり。

○栞系角を湯とりの事あり。○栞系角を湯とりの事あり。○栞系角を湯とりの事あり。

○品川入の事あり。○品川入の事あり。○品川入の事あり。

○遊覧上人の事あり。○遊覧上人の事あり。○遊覧上人の事あり。

○大人保七の事あり。○大人保七の事あり。○大人保七の事あり。

○遊覧の事あり。○遊覧の事あり。○遊覧の事あり。

○連雀町の事あり。○連雀町の事あり。○連雀町の事あり。

○享保の事あり。○享保の事あり。○享保の事あり。

○享保の事あり。○享保の事あり。○享保の事あり。

○享保の事あり。○享保の事あり。○享保の事あり。

○享保の事あり。○享保の事あり。○享保の事あり。

馬場のふもとに陸奥を築き置きたる今か加茂新田と云ふ所の又新田なる故郷あり
といふ所の築きたる陸奥を築き置きたる今か加茂新田といふ

○世初武相の界隈に夜毎ふりあつたの音あり苗敷に人の声
あつた中ふ老人の声一人あり近き江戸をりも父ふ人ふあつた十
ろふ響しとて響くもあつた止 大はるまき 秋月か

元文元年 丙辰 五月七日改元

正月仁風一覽上梓公布あり ○後忘令官板

○正月九日茶人行忌丸内率 号下匡 三痛 如來も本業は

○系業生村光波寺張子所新圓向院より家帳

○同真如堂本寺湯の社地より家帳 ○五月の字令報通利六月

引習始ふ 文令報 ○六月廿四日園林行率 勅傳と号し書を説く 陸奥も丁字安古本業は

○七月下旬より東の方ふ在り早あり 表五時 以あり

○八月ふ川 わが 大統寺小長道子の家より補陀山徳海寺より ふて ぶん せん

親世系像を写して碑をたつ 素人源伯喬写す 加茂氏建立

○八月晦日古等り仲率 八十一才等 陸奥も本業は

○十月小梅村より家帳を繕はる 井文の字あり今年 猿のふもと陸奥あり

○十二月江戸大雷 合連 小雷 ○十二月西く大畑ひ多く死に

○武蔵村地名考梓行 鶴巻原と友村百段 田原原と帝義章也 一りの日記梓行 叔法編

同二年 丁巳 十一月圓

二月十六日より陸奥を親世系系帳

○二月廿九日同白字の勅を形長谷の時の後信長権初めあり

○二月廿九日昼時外山の辺より新築する物あり子孫田町ありと

義孝人亦未損也 ○五月二日下谷八軒町より火火由徳士町迄
上野廣小徳池の堀より敷山慈眼堂より板本合於其の橋より
焼了 ○七月十九日書家池永道雲卒 名英其家刻を記す
後系抄りて小葉也

○八月川に管光と云ふ池魚小瀬りしりて糸より再建の奉加
をもちむ男女老稚日毎小募縁の平をりしりてをたらしり市
を群行しり徳材を募り五月小かりて信止せしり書書生此の
奉加の事を後まるの文あり則生此の文集小載り 生文面白き
とされし記さる

○花鳥少く桜樹を載りしり同所一輝立吟風脚文を撰走 合編
伯藏

香樹傍の建りしり之をまじり川の名も終
の記をとりてはけり名つしりしり ○八月廿日儒師宮重為卒 孫志右衛門
は合戒行し小葉
○飛戸又深川小志本川より清溪あり小志本川より清りしり
表の編或は背面小川の字あり

○十月十日夜五時星月を貫く 真より月中小
入り南方小あり

○十月七日世上一同小煙のやう成り物吹かし火事のかし此節暖氣 ぐんき

中々筆しり梅花咲 ○国十月十二日二世英一傑卒 通橋長八深川
陽嶽と小葉

○十二月十日水府彦儒師安核渡泊卒 号老牛居五十五
あり藤田生此の川と

○薩摩芋此ころより追く弘まる室磨小ありて上総中徳生解
むくありしり

元文二年 戊午

二月朔日夜五時以光お露り

○二月廿九日儒師阪田本溪卒 名隆興 隆基
本葉と小葉也

○二月廿七日書家岡秀行卒 林竹の男名義孝の孫持年
後系抄りて小葉也

○三月賀屋屋の居建 後系抄りて
本葉也 ○三月廿日儒師入江若華卒 名渡字ふ屋
下谷常林と小葉

○五月十日儒師池力恭軒卒 号有隣 日暮里 有泉寺小葉也 ○冥东凶化

○七月廿七日能人源川殿十卒 六十余才一号老荒 山名宗林寺小葉

○洞房燈臺梓行 庄司格 冥化

元文四年 己未

今年^{きんねん}於^あ泉^{いづみ}為^な久^く々^く中^{ちゆう}向^{かう}の折^せ所^{しよ}花^{はな}を山^{やま}の樞^{しゆ}を^を被^ひり^はま^まり

お枝^{えだ}の^を香^{かう}目^めを^を及^{およ}び^ひつ^つす^す山^{やま}花^{はな}の^をと^とろ^ろの^をも^も知^ちら^らま^まり

○^う牛^{ぎゆう}津^つ若^わ子^し持^ぢ現^{げん}冥^{めい}化^か ○^ま圓^{えん}向^{かう}院^{いん}少^{せう}二^に月^{げつ}卒^す卒^す冥^{めい}化^か

○卒^す所^{しよ}押^お上^{かみ}少^{せう}後^ご談^{だん}を^を講^{かう}又^{また}平^{へい}狂^{きやう}形^{けい}因^{いん}少^{せう}辯^{べん}談^{だん}あり

○二^に月^{げつ}己^じ未^み日^{にち}神^{しん}田^{でん}以^い神^{しん}中^{ちゆう}より^{より}お大^{だい}柳^{りゆう}を^をま^まり^り焼^や亡^じ

○十^{じゆ}月^{げつ}世^せ以^いを^をり^り一^{いつ}巻^{まき}後^ご所^{しよ}津^つ瑞^{ずい}應^{おう}を^を信^{しん}ず^る ○^し糸^{いと}教^{かう}拂^ひ度^ど少^{せう}付^つ

下^か座^ざの^を五^ご構^{かま}茶^{ちや}あり ○^{じゆ}十^{じゆ}月^{げつ}廿^{にじゆ}二^に日^{にち}儒^{じゆ}師^し室^{しつ}勿^ぶ初^{しよ}卒^す 名^な洪^{かう}漢^{はん} 大^{だい}塚^{つか}山^{さん}鹿^{ろく}富^ふ中^{ちゆう}葉^{えふ}は

○十二^{じふに}月^{げつ}晦^げ日^{にち}暮^ぼ宿^{しゆく}星^{せい}宿^{しゆく}宿^{しゆく}と^と少^{せう}て^て自^じ監^{かん}若^わ宿^{しゆく}也^や生^{せい}執^{しやく}ま^まり^り小^{せう}葉^{えふ}武^ぶ乃^の

真^ま心^{しん}を^をま^まり^り一^{いつ}瀕^{ひん}り^りお^おひ^ひく^く再^{さい}圓^{えん}を^を終^{しゆう}せ^せり^り同^{どう}日^{にち}己^じ未^み才^{さい}少^{せう}て^て終^{しゆう}せ^せり

一^{いつ}也^や貝^{かい}入^{にゅう}え^えり^り墳^{ふん}墓^ぼも^も同^{どう}と^とあり 自^じ隨^{ずい}落^{らく}先^{せん}生^{せい}通^{つう}稱^{しやう}山^{さん}崎^{さき}三^{さん}節^{せつ}右^う角^{かく}つ^つと^とり^り小^{せう}葉^{えふ}武^ぶ乃^のの^を犯^{はん}者^{しや}あり^り性^{せい}貨^わ氣^き隨^{ずい}ふ^ふ一^{いつ}七^{しち}官^{くわん}を^を稱^{しやう}一^{いつ}た^た小^{せう}河^かを^を好^{かう}む^む能^{ねい}格^{かく}を^をま^まり^り一^{いつ}七^{しち}葉^{えふ}門^{もん}小^{せう}越^{えつ}り^り凡^{ぼん}俗^{ぼく}文^{ぶん}集^{しやく}二^に冊^{さく} 石^{いし}思^し店^{てん}号^{ごう}に^に於^おて^て二^に冊^{さく}刊^{かん}行^{かう}せ^せり

同 丑 年 庚申 七月 至

圓^{えん}向^{かう}院^{いん}少^{せう}て^て信^{しん}州^{しゆう}若^わ光^{かう}寺^じ如^{にょ}來^{らい}冥^{めい}化^か

○^し倭^わ勢^{せい}由^ゆ府^ふの^の阿^あ弥^あ陀^だ江^{かう}戸^こ少^{せう}て^て冥^{めい}化^か ○^に二^に月^{げつ}十^{じゆ}日^{にち}南^{なん}郭^{かく}の^の二^に男^{なん}

慮^{りよ}卿^{けい}瘧^{せつ}患^{えん}小^{せう}罹^{らい}り^り卒^す 十^{じゆ}七^{しち}才^{さい}稱^{しやう}繁^{はん}三^{さん}所^{しよ}と^とり^り小^{せう}東^{とう}海^{かい}十^{じゆ}才^{さい}林^{りん}院^{いん}葉^{えふ}也^や 幼^{せう}少^{せう}り^り神^{しん}童^{どう}の^の名^なあり^りと^とえ^えを^を集^{しやく}て^て神^{しん}集^{しやく}と^と云^いふ

○七^{しち}月^{げつ}朔^{しやく}日^{にち}書^{しよ}家^か隆^{りゆう}所^{しよ}東^{とう}海^{かい}卒^す 名^な維^い章^{ちやう}根^{こん}岩^{がん} 若^わ姓^{せい}也^や小^{せう}葉^{えふ}は

○能^{ねい}人^{にん}清^{せい}水^{すい}紹^{しやう}波^は卒^す 二^に十^{じゆ}六^{ろく}才^{さい}法^{ぽう}葉^{えふ} 稱^{しやう}念^{ねん}也^や小^{せう}葉^{えふ}は ○九^{きゆう}月^{げつ}一^{いつ}日^{にち}老^{らう}所^{しよ}元^{げん}祖^そ宮^{きやう}古^こ路^ろ

老^{らう}後^ご極^{ごく}死^し ○人^{にん}少^{せう}と^とり^り小^{せう}葉^{えふ}極^{ごく}業^{ごう}を^を更^まへ^へと^とり^りお^おひ^ひ若^わ々^々一^{いつ}至^し七^{しち}月^{げつ}

信々○十月廿六日東湖御作寂

小石川三百板慈照院小
華色録云の如くあり

此年間記事

小金井村

多摩郡

不和次吉野常州櫻川の櫻の草を栽活

始寛永
のむ

植をせぬひ一雨のり一が空の
ほまゆめ於植一めれ一といひ

○武蔵志科云終る森八幡宮境内

ある所の鳥名の麻布難所の先古川と云ふお杉年在りて

果に今もその名を尊るといふ元々の次鳥名葛原己の

知るせんと此名を於の森八幡一めいともいふ一あり書家の虚

々名を好む加ありといふ

○平林信信

信林 信正

父と縁屋清方とて室町の帳を清方と

書を能くして大福帳の上書して賣す昔のあり一といふ清方を

よりわたりて清方仲商め大方彼の上書を求む懐信と

細井廣海入門下入能書の如くあり

○石巻の深松松を有る市松形より一舟と稱妓後志佐村市松

好むと云ふ一あり○舞子の花めん一と云ふあり

寛保元年 辛酉 二月二日臨元

正月廿二日書家土浦友吉辰辰年

七十一才号友吉
車坂大倉の書家也

○二月九日以後氏十二代書家年 五十四才

○二月朔日雲光院和尚要所寂

○七月廿七日信房依後周於年 六十四才

○七月廿二日新井宣彌年 白心

○十二月廿五日捨像流劍形祖

同二年 壬戌

正月下旬より東方へ曉七時以ちきり至るあり長井一尺
五寸程

○六月六日郷人早野巴人年六十六才

○七月廿八日より為降續八月朔日益八半時より大風為夜毎

止本寺よりを郵大水漲りこま本所澤川へ水を浸ひた大河通りあり

勢烈なりと必橋の池普濟中へ杭を流し水代橋新大橋損

隅田川上より切草葛雨へ水押入千石上より切草五日又利根川堤

切草水引小舟を擡りついで願免あり官府より水助船を遣ふ

く船を遣ふ小舟を遣ふく食料をぬる八月九日又大風あり

下旬小舟を引く宮本筋船で流あり翌年亥五月乃橋上流以者

修治普濟の禱文
彼元壽こまを擡る
○五月橋由に月より流普濟中へ杭來船後

あり三月小舟の処元甲子五月元の如く流普濟成る

○十一月故実者志色其意敷年其意不葬り

寛保三年 癸亥 巳月望

二月朔日より上披清あり親世者慶久冠帳おかし○二月九日

將乳山至天宮冠帳あかし○同日より後必あり月必葛井者

親世者冠帳あかし○二月十五日より宮内儀宮内親世者冠帳

○二月十五日より葛切町葉師様内より井の政新才天冠帳

は辰友人あり蘇子より冠帳花より二冊子を惜びり寛保三年より天照八年迄の

冠帳連々集記せりよりてを修しお記するお記あるの冠帳よりお後八歳あり

人の入いありあかし○花巻山の花を押花よりありて宮内橋上人より

冷泉水ありあかし○系ありてよりありて

折枝のむしと思ふありて山の花の基のさき井晴風

○巳月朔日より流草あり福ありて系清水田宮院親世者田宮院

年帳あり後より舟才天年帳○同日より王子権現同福行年帳

○同日より日暮里澤光寺入丸形神年帳

○同日より六町延徳寺西隣年帳 仍基井五十千
二年辰徳寺表

○正月六日医師舟月百里年 号雷山又号唐七十九才清宗其松院子
幕は和舟を結せ一人之因舟百里二人

あり一人ハ能所言被百里
雷寺と号は澤光へくく○同日月影日より湯治社向ふて大板天子寺

西聖徳寺子年帳○同日より市谷八幡宮より野村末之山送王

と東条作如末年帳○同日より池の姥老とよて比叡山坂本寺年

と祖師年帳○六月二日虎形乾山年 八十二年号は省経三所法橋
光琳の足之舟とよてなるハ非之陶巻ハ

名あり茶室のせうくま
坂本寺と名するハ非也○室に月初進比五尾津宿を修實は元三年の徳の
比五尾八友町あり

榎田里の武士と榎木徳死せり老より一より比五尾町中にあるを止むハ一ハ之は日と名
十帖云云新田よりあるを上と一子孫田下新田中本所あり之を上下に宿ハ別和東町
を上と一八友町を中と一を榎津とつ取寄る榎大田中丸田町西と一あるは中之東端
細かた徳とあり一は徳二年より一榎木徳妻は海防中ふある上の比五尾の子びく尾二人

つまの令盛同を
あやうなることと○七月朔日より廣系流所町法務所年帳

○同日より飯田町世澤徳行年帳

○同日より市谷八幡宮より一と又風来寺日輪院より勅諭年帳

○十一月上旬より夜々稲早為の方小理氏 稲早
より

此年間記事

那波宮道は江戸世六人あり顯一ありかて路一一とて常約といふ
人の攝あて千一の然といふ御書あり今日所宗道と号は若殿百人
ありやまらうへうへに世道の妻たるおね徳あうり知くは
○宮道の地所山掃ありけ一葉を女不くふあり

武江年表卷之四 畢

编者 斎藤市左衛門幸成